

年 報

平成29年度

平成30年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、5遺跡4件の発掘調査と、延べ13遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、2冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。

本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、諸事情により、昨年度来大幅な事業縮小を余儀なくされました。そのため、例年好評をいただいております「埋蔵文化財センター参観デー『埋文まつり』」をはじめとするいくつかの事業の実施は、まことに残念ながら今年度も見合わせざるを得ませんでした。しかしながら、埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢に変わりはなく、ホームページによる情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、考古学講座の開催のほか、ホームページ上での公開ではありましたが、広報誌『埋文やまがた』の発行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。また、職員を派遣しての講演や体験活動、調査研究発表等は、従来通り実施してまいりました。

埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成30年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 廣瀬 渉

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
下中瀬遺跡	10
野田遺跡	12
山形城三の丸跡（第20次）	16
八幡一遺跡（第2次）	20
八幡西遺跡（第2次）	22
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	26
(2) 普及啓発	
①センター公開事業	26
②考古学講座	27
③来所者	28
④調査説明会	30
⑤職員派遣等	31
⑥資料貸出	34
⑦資料掲載許可	35
⑧研究紀要	36
⑨出版物	36
⑩ホームページ	36
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	36

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」「遺跡(発掘現場)見学や研修の受け入れ」「考古学講座」の実施などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	廣瀬 渉	山形県教育委員会教育長
専務理事	齋藤 稔	財団常勤役員
理事	渋谷 孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	矢口 俊雄	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	渡邊 弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会 常務理事
理事	大場 秀樹	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	柳野 哲郎	税理士有資格者
監事	奥山 賢	山形県教育庁総務課 課長

評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	小野 忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	草苺 信博	特別法人山形県住宅供給公社 専務理事
評議員	佐藤 庄一	山形考古学会 会長
評議員	早坂 浩也	山形県県土整備部道路整備課 課長
評議員	保科 秀隆	山形県農林水産部農村整備課 課長

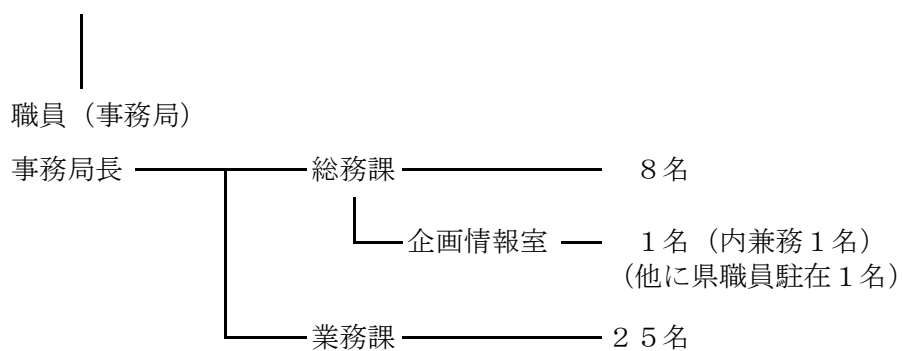
(2) 職制及び人員

事務局長	1名
課長	1名
室長	(1名)
調整主幹	1名
課長補佐	(1名)
調査研究専門員	3名
専門調査研究員	4名
主査	2名
主任調査研究員	6名
事務員	4名
調査員	11名
計	33名

(3) 組織

役員（理事会）

理事長（非常勤）——専務理事（常勤）



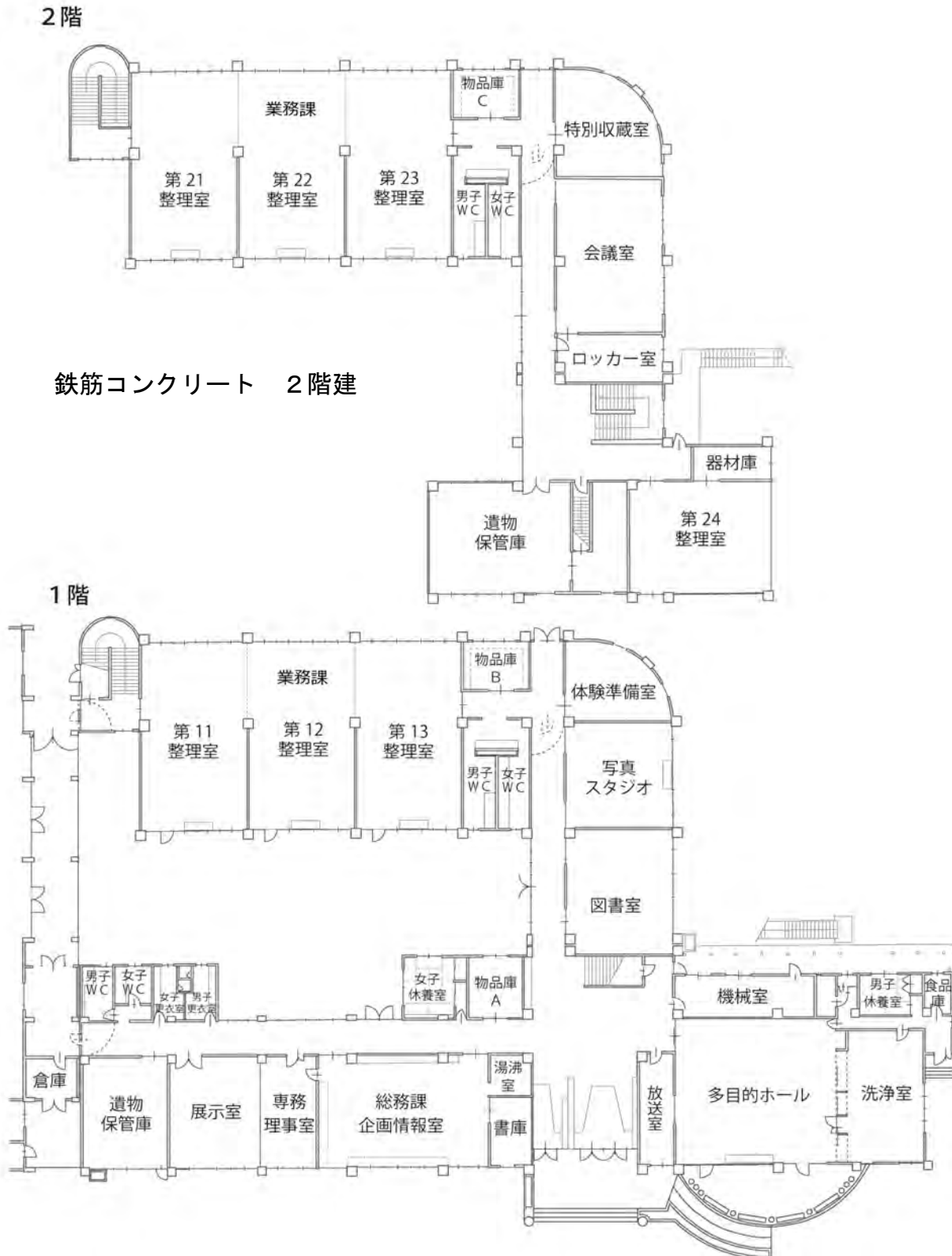
(4) 職員

課名	職名	氏名	所属
総務課	事務局長 (兼)総務課長、企画情報室長	黒坂 雅人	財団職員
	企画調整主査	原田 英明	財団職員
	総務主査	高桑 弘美	財団職員
	課付主任調査研究員	草野 潤平	財団職員(震災復興派遣)
	事務員	林 浩子	
	事務員	片平 玲子	
	事務員	板垣美智子	
	事務員	川上ひろ子	
	事務員	中川未来絵	(1月10日退職)
企画情報室	駐在(埋蔵文化財調査研究員)	(向田 明夫)	(教育庁 文化財・生涯学習課)
業務課	課長	伊藤 邦弘	財団職員
	調整主幹(兼)課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	齊藤 主税	財団職員
	調査研究専門員	氏家 信行	財団職員
	調査研究専門員	小林 圭一	財団職員
	専門調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	専門調査研究員	齋藤 健	財団職員
	専門調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	専門調査研究員	高桑 登	財団職員
	主任調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	大場 正善	財団職員
	主任調査研究員	菊池 玄輝	財団職員
	主任調査研究員	天本 昌希	財団職員
	主任調査研究員	渡辺 和行	財団職員
	調査員	高木 茜	
	調査員	五十嵐 萌	
	調査員	後藤枝里子	
	調査員	板橋 龍	
	調査員	森谷 康平	
	調査員	阿部 明彦	
調査員	木村 恵理		
調査員	安達 将行		
調査員	吉田 満		
調査員	長澤 友明		
調査員	色摩 優吾		

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年12月1日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



II 事業概要

1. 調査業務

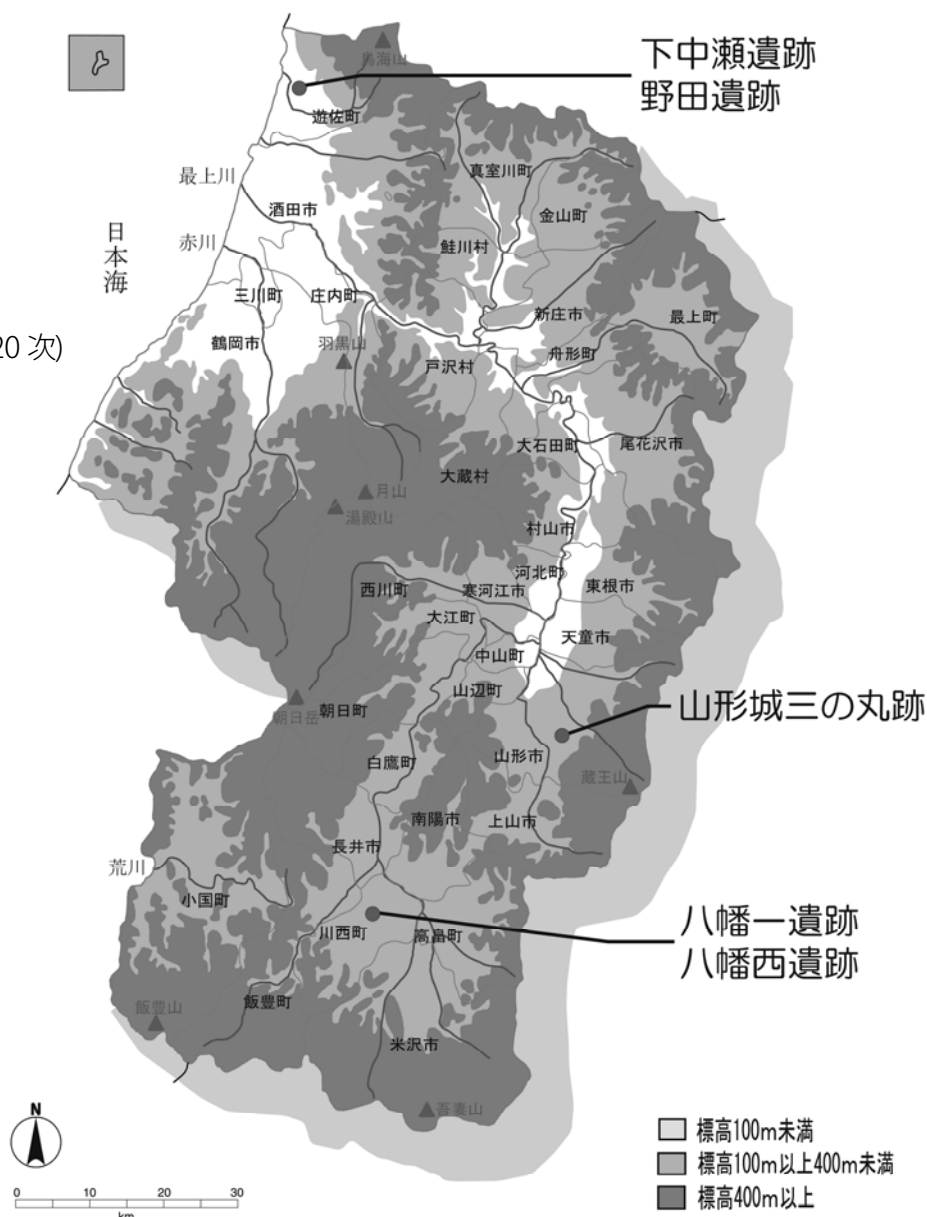
平成 29 年度は、国土交通省、山形県および米沢市から委託を受け、道路建設と道の駅建設に先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は 5 遺跡 4 件について行い、総調査面積は 11,670 m²になります。出土品は、土器等 179 箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ 13 遺跡について実施し、そのうち 3 遺跡 2 冊の発掘調査報告書を刊行しました。

平成29年度 発掘調査遺跡

- 1 しもなかせ
下中瀬遺跡
- 2 のだ
野田遺跡
- 3 やまがたじょうさんのまる
山形城三の丸跡(第 20 次)
- 4 やわたいち
八幡一遺跡(第 2 次)
- 5 やわたにし
八幡西遺跡(第 2 次)



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

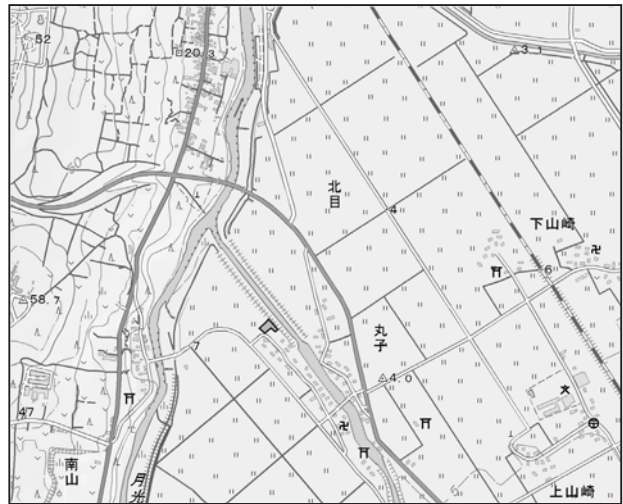
NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	山形城三の丸跡 (第20次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月27日～10月6日
2	八幡西遺跡 (第2次)	川西町	奈良・平安・近世	集落跡	5月12日～9月22日
3	八幡一遺跡 (第2次)	川西町	奈良・平安・中世	集落跡	7月3日～9月5日
4	野田遺跡	遊佐町	奈良・平安	集落跡	6月1日～11月29日
	下中瀬遺跡	遊佐町	奈良・平安 中世・近世	集落跡	6月1日～11月29日
5	上竹野遺跡 (第1・2次)	大蔵村	縄文・弥生	集落跡	
6	山形城三の丸跡 (第15・17・19次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡	
7	八反遺跡 (第1～3次)	東根市	縄文、古墳～中世	集落跡 墓地跡	
8	松橋遺跡 (第1・2次)	村山市	奈良・平安・中世	集落跡	
9	清水遺跡 (第1～7次)	村山市	奈良・平安・中世	集落跡	
10	羽黒神社西遺跡 (第1・2次)	村山市	縄文	集落跡	
11	馳上遺跡 (第7・8次)	米沢市	古墳・奈良・平安	集落跡	
	元立北遺跡	米沢市	縄文・古墳	集落跡	

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	起因事業<委託者>	業務内容			調査経費 ：円
			発掘	整理	報告書	
230	24	一般国道112号霞城改良〈国土交通省〉	○	○	—	50,508,360
3,500	37	一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	○	○	—	73,276,920
300	10	一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	○	○	—	20,869,920
7,050	61	日本海沿岸東北自動車道(遊佐～象潟)〈国土交通省〉	○	○	—	103,634,640
590	47	日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐)〈国土交通省〉				
		一般国道458号道路改良〈県土整備部〉	—	○	—	44,418,240
		都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線〈県土整備部〉	—	○	—	32,785,560
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	—	28,510,920
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	○	14,007,600
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	—	39,314,160
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	—	43,585,560
		(仮称)道の駅よねざわ、主要地方道米沢高畠線 道路改築〈山形県米沢市〉	—	○	○	52,988,780
11,670	179					503,900,660

(2) 調査遺跡の概要

しもなかせ 下中瀬遺跡

遺跡番号	461-209
所在地	山形県飽海郡遊佐町北目字下中瀬ほか
北緯・東経	39度04分96秒・139度88分89秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起回事業	日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）
調査面積	590㎡
受託期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査	平成29年6月1日～11月29日
調査担当者	齊藤主税（現場責任者）・植松暁彦・阿部明彦
調査協力	遊佐町教育委員会・庄内教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代・平安時代・江戸時代
遺構	土坑・溝跡・ピット・堀跡・井戸跡・墓坑
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・木製品・古銭（文化財認定箱数：47箱）



遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

下中瀬遺跡は、遊佐町北端の丸子地区の畑地に所在する。庄内高瀬川左岸の自然堤防（微高地）上に立地し、標高は約3mを測る。遺跡は、日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）の一部にあたり、関係機関の協議の結果、平成29年6月より発掘調査を行った。

遺構と遺物

○平安時代（約1,200年前）

今回の調査では、調査区中央部のS K 7・S K 25土坑で製塩土器がまとめて出土した。また、調査区東半部では現在の高瀬川と概ね直交や並行して幅約30cmの溝跡が数条並走し、畑の畝跡の可能性も考えられた。

出土遺物は、製塩土器の他に、9世紀前半頃の登窯で焼かれ灰色硬質の須恵器や、野焼きで赤褐色軟質の土師器の供膳具の坏類、蓋、煮炊き具の甕などが出土した。

○江戸時代（約300年前）

調査区中央部から幅約2.5m、深さ約1.2mの長大なS D 16・18堀跡が東西（高瀬川と同方向）に2条並走して発見された。また、両堀跡に直交してS D 29・33堀跡も南北に並走し調査区外に延びる。

これら堀跡からは、最下層などから漆器や下駄などの

木製品や中近世陶磁器が出土した。これら出土遺物の年代からは、概ね堀跡の埋没開始が江戸時代前半頃で、最上層は黄褐色土の人為的な埋土が認められた。堀の埋め立て後は、炭が充満するS K 20土坑やS E 31井戸跡が新たに構築され、概ね17世紀後半～18世紀前半頃である。

そして、この堀跡の西側には、調査区西端にS X 41溝跡としたコの字状溝跡、それを切るS K 22墓坑（炭が充満し古銭が複数枚出土）、小礫を充満するS K 28土坑などが単発で確認される。出土遺物やS X 41溝跡・S K 22墓坑の主軸がS D 16・18堀跡の方向とも共通し、概ねこれら堀跡やS K 20土坑・S E 31井戸跡と同じ時期のものと考えられる。

まとめ

今調査では、平安時代の9世紀頃の河川に隣接した集落の土地利用（畑跡や製塩土器）の一端がうかがえた。

江戸時代では、地形や字名から調査区南側に広がる屋敷地の存在がうかがえた。今調査区は、その北端部分にあたり、今後遺構の埋土などの理化学的分析は必要だが、堀跡で区画された屋敷地の外側にある祭祀場などの性格も推測された。

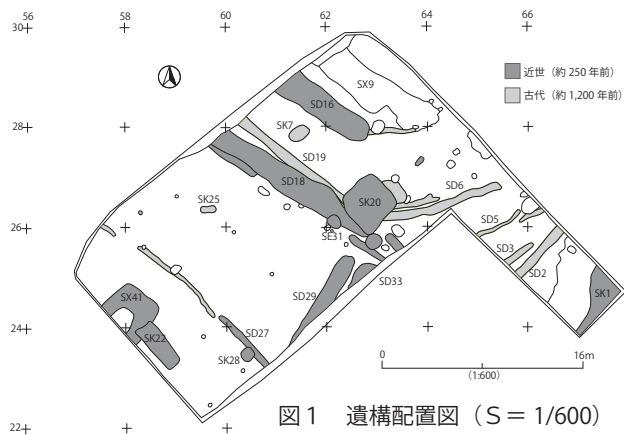


図1 遺構配置図 (S = 1/600)



写真1 遺跡遠景 (西より。矢印が調査区)



写真2 SK 17 土坑の精査状況 (北より)



写真3 平安時代の製塩土器



写真4 直交する堀跡 (北より。SD 16・18・29・33)



写真5 SD 18 堀跡の土層断面 (北から)



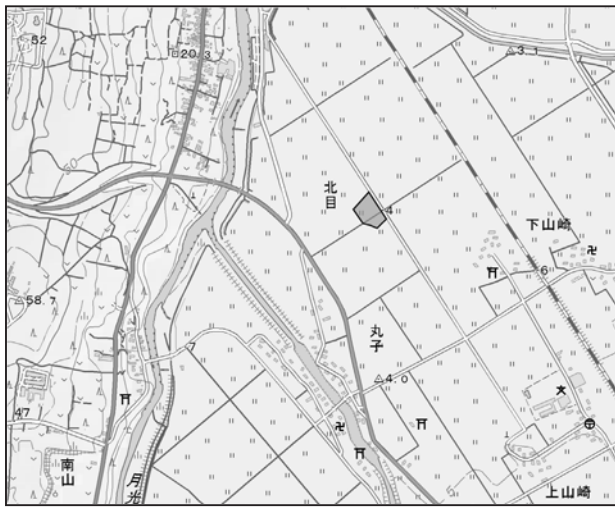
写真6 SD 18 堀跡の近世陶磁器出土状況



写真7 SX 41 溝跡・SK 22 墓坑の完掘 (南より)

野田遺跡

遺跡番号	461-210
所在地	山形県飽海郡遊佐町北目字野田
北緯・東経	39度05分29秒・139度89分28秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起回事業	日本海沿岸東北自動車道（遊佐～象潟）
調査面積	7,050 m ²
受託期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査	平成29年6月1日～11月29日
調査担当者	齊藤主税（現場責任者）・植松暁彦・阿部明彦
調査協力	遊佐町教育委員会・庄内教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代・平安時代
遺構	掘立柱建物跡・井戸跡・土坑・溝跡
遺物	縄文土器・石器・土師器・須恵器・木製品・石製品・鉄滓・陶磁器（文化財認定箱数：61箱）



遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

野田遺跡は、遊佐町北目字野田に所在する。庄内高瀬川右岸の自然堤防（微高地）上に立地し、標高は約3mを測る。遺跡は、日本海沿岸東北自動車道（遊佐～象潟）の一部にあたり、平成28年度8月に県教育委員会が事業区内を踏査し発見、同年10月に試掘調査を行い遺跡範囲などが明らかになった。その後、関係機関の協議の結果、平成29年6月より発掘調査を行った。

遺構と遺物

今回の調査では、調査区中央部の標高が高い微高地か

ら奈良・平安時代の掘立柱建物跡の柱穴群や、井戸跡、土坑、溝跡などが発見された。その両端の調査区東側と西側の低地では湿地跡などが確認された（写真1・2）。

○縄文時代（約2,500年前）

調査区西側の低湿地などから縄文時代終末期の縄文土器片や黒曜石製や頁岩製の石鏃、削器などが出土した。主にキャンプサイトなどの可能性がある。

○奈良・平安時代（約1,200年前）

建物跡（SB）は、調査区北半部で、SB1・2建物跡など当遺跡の主体的な建物が発見された。これら建物の柱穴は、直径約30cmで、一部には柱根が残るものもある。SB1建物跡は、梁行2間×桁行4間の規模で、内部に間仕切りの柱列（3間）も配置され、主軸は磁北からやや東に傾く。SB1建物と重複するSB2建物跡は、梁行2間×桁行3間の規模で、主軸がほぼ磁北をとる。両者は、柱穴同士の切り合いがなく新旧は不明だが、SB1建物の建て替えなども考えられる（写真3）。

調査区南半部ではSB3とした梁行1間×桁行2間の小規模な建物などが確認された。柱根にあたる部分が炭化し、火災などにあったことも推測された。なお、他の建物群もSB3のような、小規模で簡易なものが多い。



写真1 野田遺跡の調査区全景(写真奥に霊峰鳥海山を望む)
る。齋串は、平安時代の出羽国府とされる酒田市城輪柵^{きのわのさく}跡周辺で多く出土することが知られ、奈良時代に遡るものは少ない。他に前述した S E 101 井戸跡や S K 102 土坑からも火切り白などと共に齋串が出土している。

井戸跡 (S E) は、調査区南半部を主に、木製の井戸枠があるものと、素掘りのものが確認された。S E 101 井戸跡は、井戸枠が長さ約 1 m の平面正方形で、その井戸枠を設置するための掘方^{ほりかた}は直径約 3 m、深さ約 1.5 m と大形である。特に井戸枠は、一辺に縦板^{たていた}が 4～5 枚配置され、内側に数段の横棧^{よこさん}が組まれ、鳥海山からの湧水により木材が腐朽せずに良好に遺存する (写真 4)。また、この井戸の掘方からは、土器の底部に本県では初出の「嶋」と書かれた墨書土器が出土した (写真 5)。なお、井戸枠内の堆積土中位に白色粘土が薄く堆積し、青森県の十和田 a 火山灰 (西暦 915 年降灰) の可能性がある (写真 6)。他に S E 101 井戸跡の周辺には、直径約 2 m、深さ約 1 m の素掘りの井戸跡も 3 基ほど発見された。

他に、袋状の土坑や鍛冶を示す鉄滓 (椀型滓) が単発的に確認された。

土坑 (S K) は、主にゴミ捨て用の大型の穴と考えられ、調査区の北側と南側にまとまって確認される。

溝跡 (S D) は、調査区中央部と低地の境に沿って、長さ約 5～10 m、幅 30～50 cm のものがほぼ東西方向に走行する。特に S D 255 溝跡は、細身の柱根が部分的に残り、集落の区画などの役割も推測される (写真 7)。

特に S K 2 土坑では、齋串がまとまって出土し注目された。齋串は、長さ約 20 cm の木製の細長い板材を利用し、頭部の先端を山形に尖らせ加工したもので、当時の厄払いなどの祭祀に用いられたとされる (写真 8・9)。供伴する土器から 8 世紀末頃の奈良時代のものと推測され

湿地跡 (S X) は、調査区中央部の東側と西側の低地に広がり黒い泥炭土の上位に部分的に褐色粘土層も堆積する。泥炭土上面には、S E 101 井戸跡と同じ白色粘土 (十和田 a 火山灰か) が混入し、土器片も若干出土する。

まとめ

調査の結果、低湿地に挟まれた微高地上に営まれた奈良～平安時代にかけての集落跡が検出され、遺構では井戸跡を中心とする建物群の配置が確認された。また、遺物では、齋串などの律令祭祀に係る特徴的な遺物が注目される。

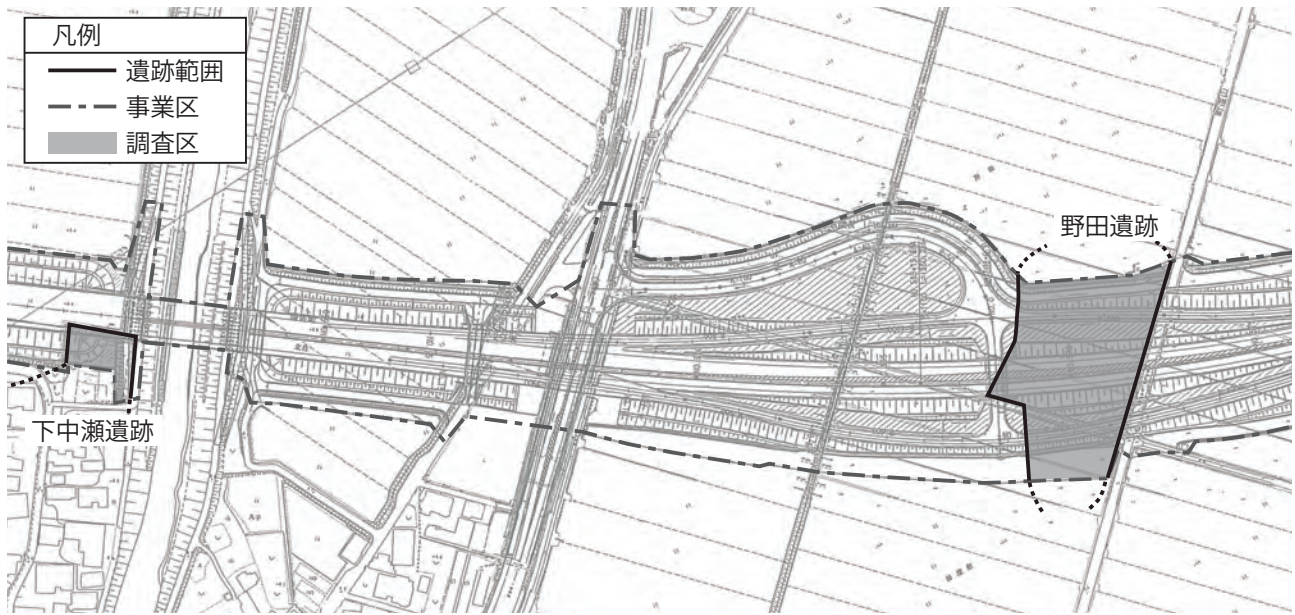


図1 遺跡概要図 (S = 1/4000)

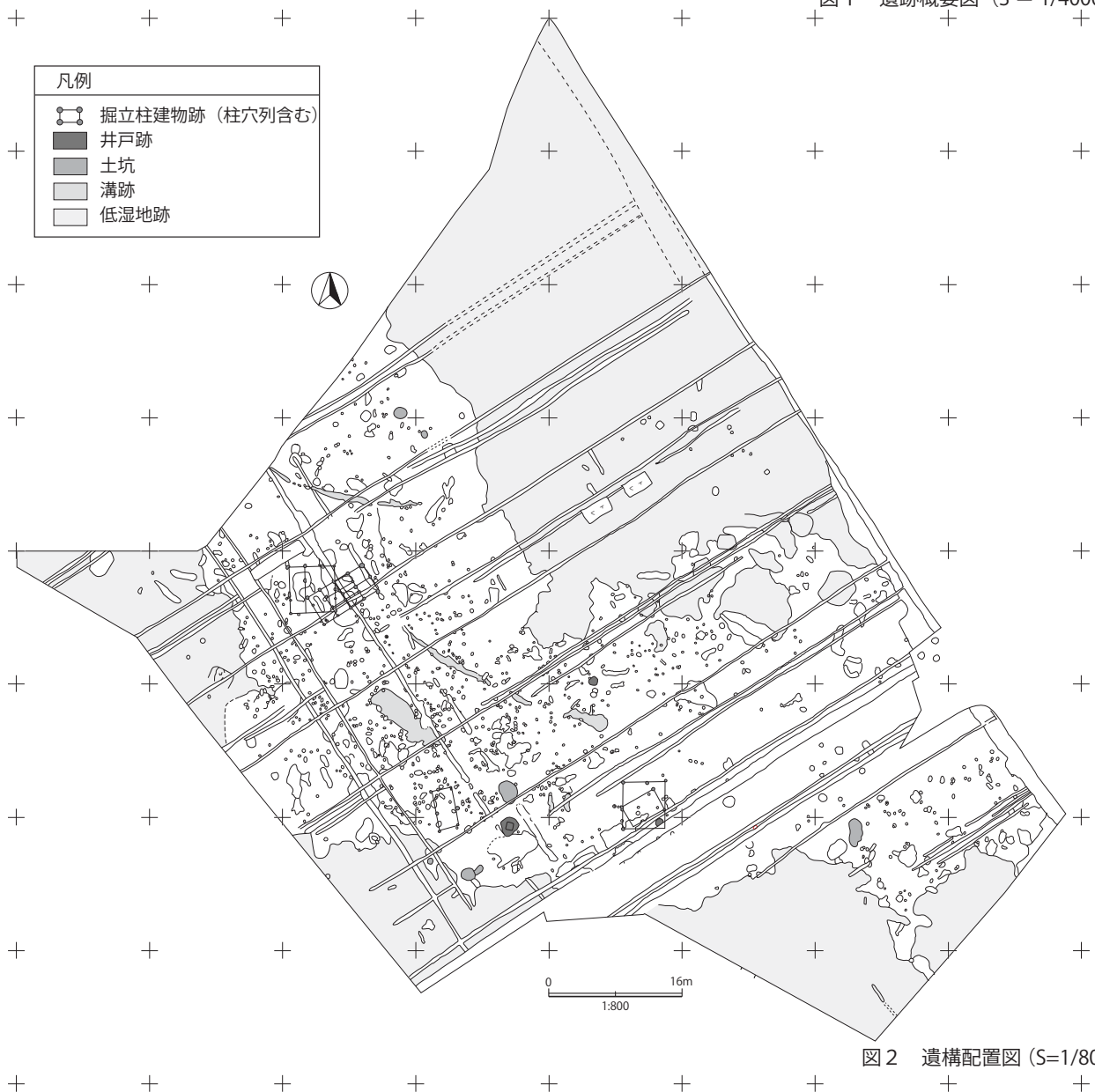


図2 遺構配置図 (S=1/800)



写真2 調査区全景(空中写真)



写真3 SB1・2建物跡(SB1は黒線、SB2は白線)



写真4 SE 101 井戸跡の井戸枠(縦板・横棧)状況



写真5 SE 101 井戸跡の掘方出土の「嶋」墨書土器



写真6 SE 101 井戸内の白色粘土層(十和田a火山灰か)



写真7 SD 255 溝跡の打込み杭出土状況

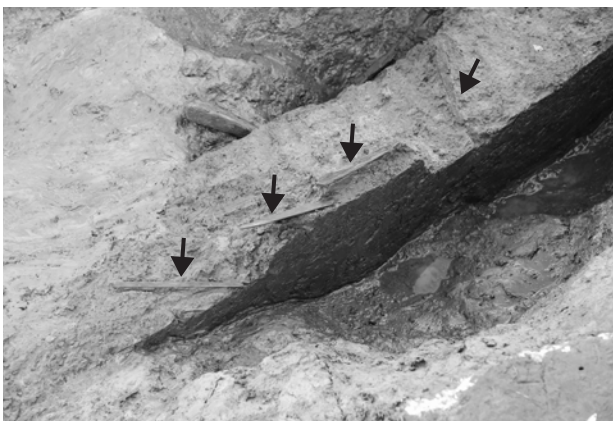


写真8 SK 2 土坑跡の齋串出土状況



写真9 SK 2 土坑出土の齋串群

やまがたじょうさんのまる
山形城三の丸跡（第20次）

遺跡番号 201-003
調査次数 第20次
所在地 山形県山形市大手町・城北町
北緯・東経 38度15分29秒・140度20分5秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 一般国道112号霞城改良事業
調査面積 230㎡
受託期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査 平成29年6月27日～10月6日
調査担当者 小林圭一（現場責任者）・高木茜
調査協力 山形市上下水道部・山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡・城館跡
時代 奈良時代・平安時代・中世・近世・近代
遺構 溝跡・土坑・柱穴・河川跡
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・瓦（文化財認定箱数：24箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城（本丸・二の丸）を取り囲む東西約1.6km、南北約2kmの広大な城館跡で、文禄・慶長年間（1592～1615年）に最上氏第11代当主の最上義光が、三重の堀を構えた城郭として整備したと言われおり、国内では5番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし最上氏は元和8年（1622年）に第13代義俊が改易され、それ以降鳥居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返し、石高も57万石から5万石まで削減された。そのため、しだい

に広大な山形城を維持することが困難となり、手入れが行き届かず、幕末期の水野氏5万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道112号の拡幅工事に起因するもので、平成23年度の第9次調査、24年度の第11次調査、25年度の第13次調査、26年度の第14次調査、27年度の第16次調査、28年度の第18次調査に続いて実施されたもので、国道112号に沿った区域を市街地の区画ごとに2箇所（M・P区）に分けて、調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子が判明した。

遺構が最も多く検出されたのは、P区とした大手町の調査区（P-5区）で、近世から近代にかけての水路や水場と考えられる石組み遺構が検出された。調査区の大半が河川の氾濫による川原石で覆われ、これらの石を掘り込んで遺構が構築されており、水場遺構（SK2633）からは、肥前焼の皿の破片（16世紀末～17世紀初め頃）が出土した。

またM区とした城北町の調査区(M-2区)では、近世～近代の溝跡のほかに、その下位からは、奈良・平安時代の遺物包含層が検出され、土師器や須恵器の破片が多く出土した。

まとめ

江戸時代には武家屋敷となっていた三の丸一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤にして城下町が形成され、近代の山形市街地の発展につながったと考えられる。これまで調査し

た三の丸の北側では、最上氏時代の16世紀末～17世紀の遺物が比較的多く出土したことから、この地域が比較的古い時期に田畑となったため、後世の開発が進まなかったと考えられる。馬見ヶ崎川の扇状地の形成により、土砂が厚く堆積したため、遺構や遺物が比較的良好な状態で残存したと推定され、三の丸の範囲内でも、場所によって後世の土地利用に差異があったことを示している。



写真1 P-5区東側全景



写真2 P-5区水場遺構(SK2633)完掘状況



写真3 P-5区土坑(SK2625)平瓦出土状況



写真4 P-5区西側全景



写真5 M-2区全景



写真6 M-2区溝跡(SD2663)完掘状況



図1 調査区概要図 (S=1:2500)

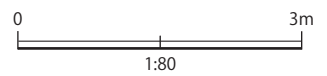
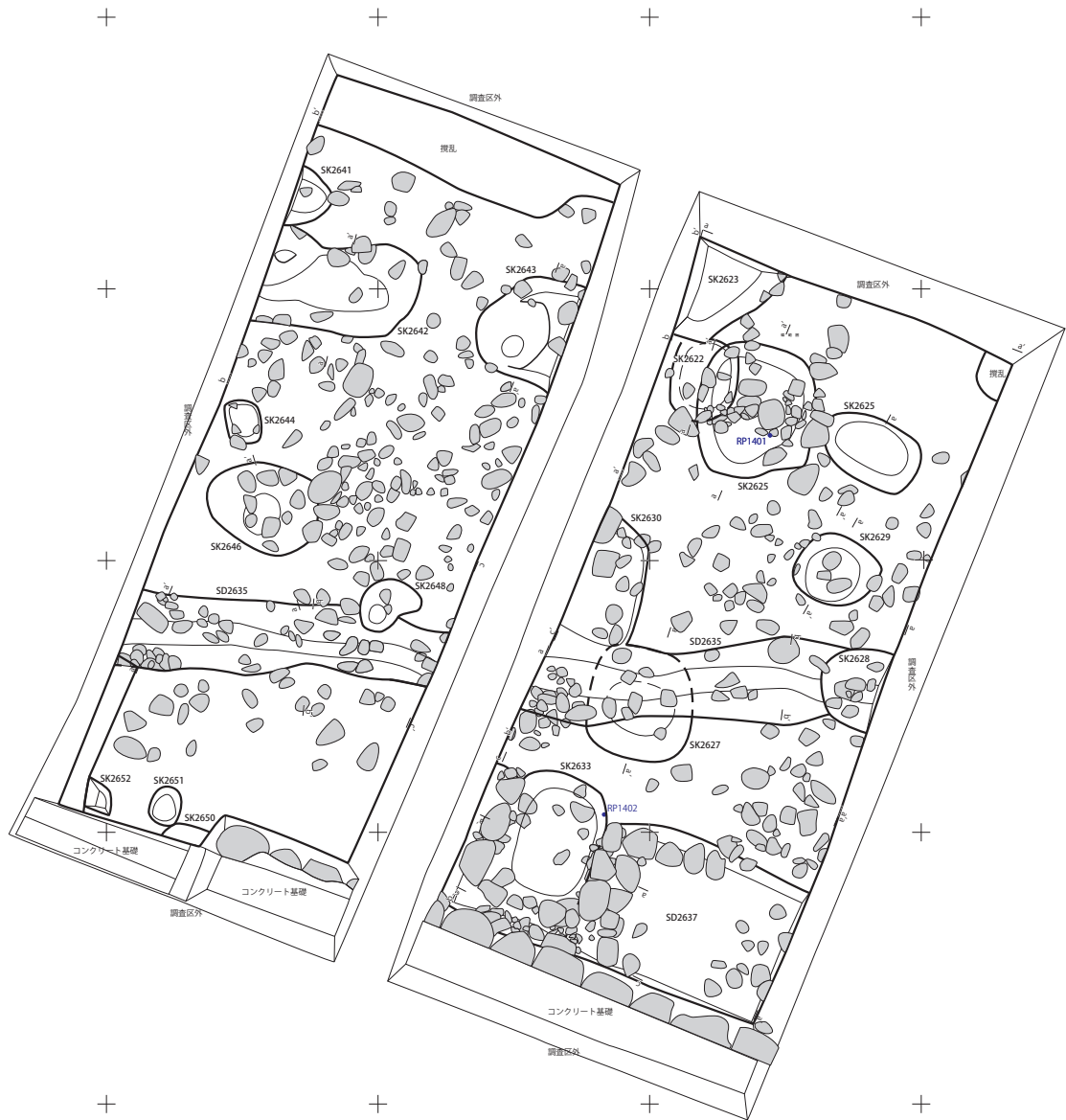


図2 P-5区遺構配置図 (S=1:80)

やわたいち 八幡一遺跡（第2次）

遺跡番号	382-194
調査次数	第2次
所在地	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡一
北緯・東経	38度02分42秒・140度03分53秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	一般国道113号梨郷道路事業
調査面積	300㎡
受託期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査	平成29年7月3日～9月5日
調査担当者	水戸部秀樹（現場責任者）・五十嵐萌
調査協力	川西町教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構	井戸・土坑・柱穴
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・石製品・木製品（文化財認定箱数：10箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

当遺跡は最上川にそそぐ元宿川左岸の低地に位置している。第1次調査では、底部に「佛法爲」と刻まれた9世紀前半の須恵器小型壺、板碑、五輪塔、相輪など仏教に関する遺物や、長崎県を主な産地とする滑石製石鍋などが出土した。遺構は旧河道、中世の素掘り井戸、縦板組隅柱横棧どめ井戸、近世の木棺墓、柱穴群などが検出された。遺物の大半は旧河道から出土しており、周囲から廃棄されたものだと考えられる。

調査の成果

第2次調査区は、第1次調査時に着手できなかった個所である。狭い面積を対象とした調査であったが、7基の素掘り井戸、1基の縦板組横棧どめ井戸、4基の土坑、柱穴などが検出された。

検出された井戸のうち、水が湧く深さまで掘り下げられていたものは2基の素掘り井戸と縦板組横棧どめ井戸だけである。ほかの5基は帯水層の深さまで達しておらず、湧水はなかった。また、第1次調査区内だが、隣接した個所で湧水のある素掘り井戸を1基検出している。

湧水が無いものを井戸と呼べるのか疑問だが、狭い範囲に集中していることから、良質な水が湧く場所を探して

幾度も試し掘りをしていたのではないかと考えている。帯水層は周囲一带に広がっているはずで、ある一定の深さに達すれば湧水を得られただろう。しかし掘る場所によっては、帯水層より上位に泥炭層が存在しているため、溶け出した泥炭層によって水が濁ってしまう可能性が高い。濁らない水を得るために、泥炭層が存在しない場所を探し、泥炭層に当たった時はそれ以上掘り下げずに放棄、あるいは埋め戻したのではないだろうか。

縦板組横棧どめ井戸に使用された木材は、縦板一枚と井戸底に設置した横棧を除いて抜き取られていた。

井戸からは曲物や須恵器などが出土したが、詳しい年代は理化学的年代測定を行ってから判断する予定である。

まとめ

第1・2次調査区は湿地とその周辺部に位置しており、遺跡の中心部ではないだろう。出土した遺物の大半も北側にある微高地から廃棄されたものであり、微高地上には、古代から近世を中心とした遺跡が存在する可能性が高い。出土遺物からは、仏教に関わる施設も含まれていることが示唆できよう。

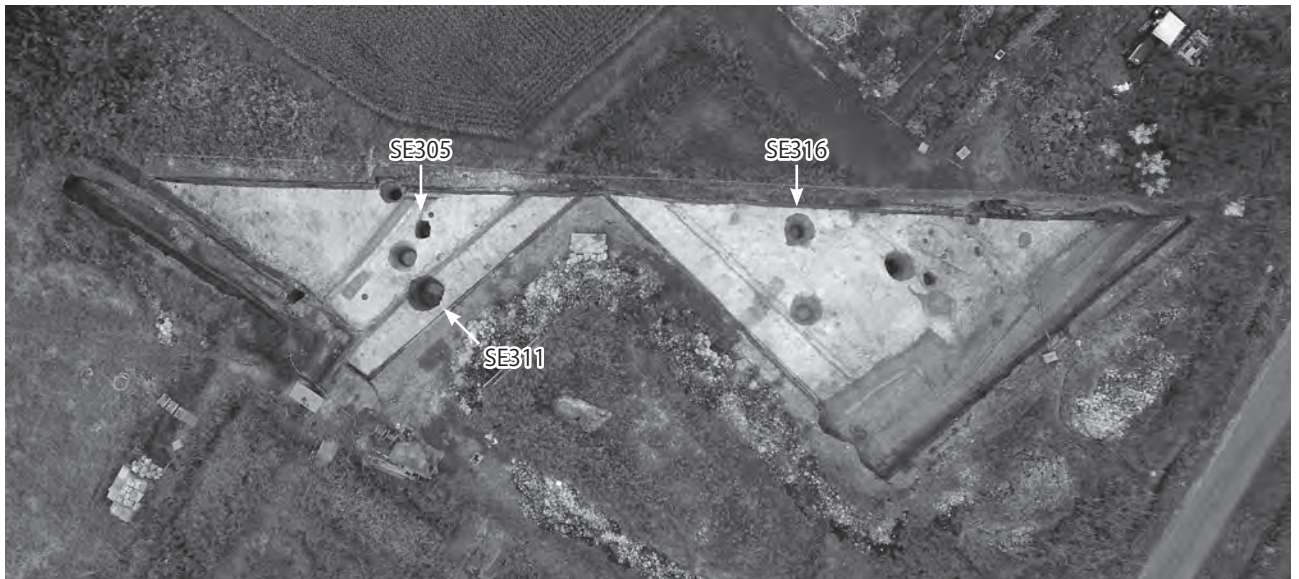


写真1 調査区全景（上が北）

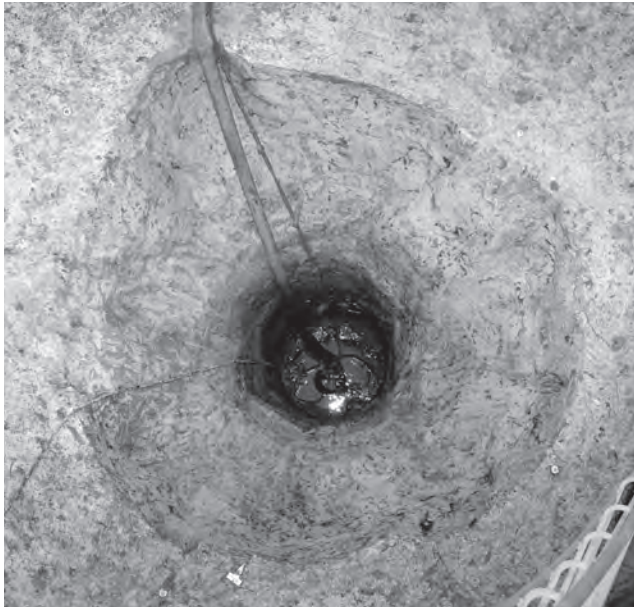


写真2 湧水のある素掘り井戸 SE316（深さ：約 3m, 東から）

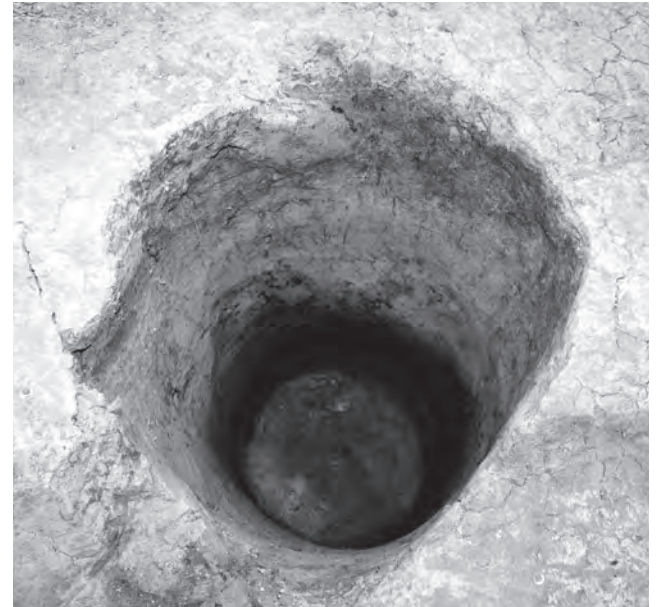


写真3 湧水のない素掘り井戸 SE305（深さ：約 1.9m, 西から）



写真4 湧水のある縦板組横棧どめ井戸 SE311 の断面（東から）

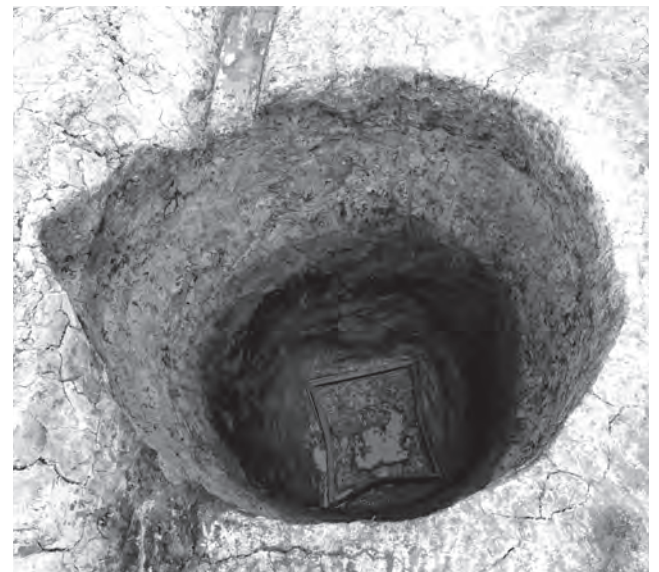


写真5 縦板組横棧どめ井戸 SE311（深さ：約 2.4m, 南から）

やわたにし 八幡西遺跡 (第2次)

遺跡番号	382-172
調査次数	第2次
所在地	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡三
北緯・東経	38度2分40秒・140度3分41秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起回事業	一般国道113号梨郷道路事業
調査面積	3,500㎡
受託期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査	平成29年5月12日～9月22日
調査担当者	菊池玄輝(現場責任者)・後藤枝里子・色摩優吾
調査協力	川西町教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代・平安時代・江戸時代
遺構	竪穴建物・掘立柱建物・柵・柱穴・土坑・土葬墓・溝・濠・自然流路・水田・水場
遺物	土師器・赤焼土器・須恵器・陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品等(文化財認定箱数:37箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

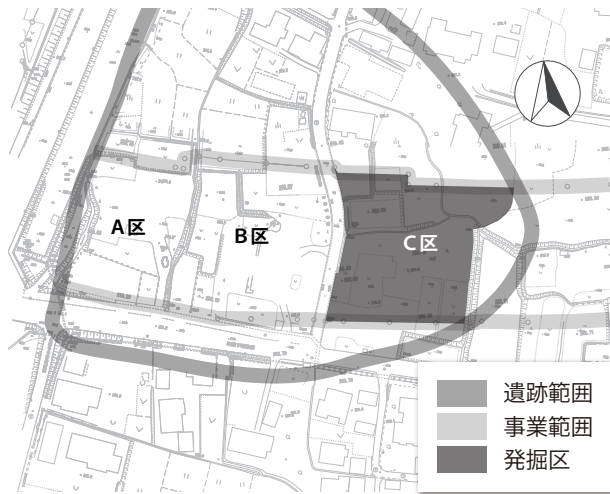


図1 発掘区概要図 (1:6,000)

調査の概要

八幡西遺跡は川西町北端の郊外(大字西大塚)に所在する(遺跡位置図)。遺跡は、整備が進む「新潟山形南部連絡道路」(国道113号バイパス事業)の一部区間「梨郷道路」に当たり、平成25年度の元宿北遺跡、同26年度の八幡一遺跡に続き、計画路線部分の発掘調査となった。昨年度の第1次調査は遺跡を縦断する町道の西側(A・B区)を、今年度の第2次調査ではその東側(C区)を調査した(図1)。当該事業に伴う八幡

西遺跡の発掘調査は今回で終了となる。

遺構と遺物

昨年度のA・B区と同様、今年度のC区でも北側(微高地)と南側(緩傾斜の低地)の微地形の差異が確認できた。ただ、遺構の分布が希薄だった南側の低地にC区ではむしろ遺構が密集し、後述する近世の時代には屋敷地の中核となるようだ。湿潤で不安定な立地の制約にかかわらず、別の意図で土地を選定しているのだろうか。

以下では現段階の理解ながら、推定した時代別に代表的な遺構(・遺物)について説明する。

まず奈良・平安時代(古代)では、微高地上に竪穴建物2棟と掘立柱建物3棟の各単位が点在する。

竪穴建物(ST1730)はC区中央に位置し、平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸長5.7m・短軸長4.1m・深さは50cmを測る。柱穴など建物を構成する要素は検出できなかったものの、竪穴南東隅から外に向かって延びる排水溝が見つかった。排水溝は古代では工房(非居住施設)での発見例が目立つことから、日常生活に伴う自然排水だけではなく、手工業生産の過程で生じた汚水処理用の可能性も考えたい。

掘立柱建物は3棟(SB2912・2913・2915)見つ

かり、いずれもC区北東端にまとまる。

SB2912は桁行^{けたゆき}2間以上・梁間^{はりま}2間の推定南北棟で、桁行は発掘区外へ続く。柱^{はしら}間寸法は桁行が6.0尺等間、梁間は7.5尺の等間である。SB2913は桁行3間・梁間2間の南北棟で、建物中央を近世の屋敷^{ぼり}濠に壊される。柱間寸法は桁行が5.5～6.5尺、梁間は8.0～8.5尺とややばらつく。SB2915は桁行3間・梁間1間の東西棟で、柱間寸法は桁行が5.8～7.7尺、梁間は12.8尺等間である。これら3棟は広めの間尺^{まじやく}を基調とし、主軸方位が真北^{しんぼく}からやや西に振れる点で一致する。

竪穴建物群と掘立柱建物群の間に柵や溝などの区画施設はないものの、その位置関係から、それぞれ生活単位としての独立性が認められるかもしれない。

一方、江戸時代（近世）になると当地に規則的な配置が生まれる。方格状の地割に基づく屋敷の成立である。これは外郭を濠で方形に^{いによう}圍繞し、その内部に複数の掘立柱建物や柵、水路や水場（木組み）などを伴う。区画北辺には平行する二重の濠（SD1001・1732）が巡り、東辺に当たる濠（SD1501）と直交し接続する。これらは上幅3.0m弱、下幅は0.4～1.4mで、深さは1.5mを測る。濠割の内部空間は埋没した湿地帯と重なるものの、地勢にかかわらず約500個の柱穴が密集し、掘立柱

建物10棟弱、柱^{ちゆうけつ}穴列（柵）3列ほどの組合せが見込まれる。中でも掘立柱建物（SB2901）は桁行8間・梁間2間の身舎^{みや}に片平1間の^{かたびら}廂^{ひさし}が付く長棟^{ちやうとう}建物で、規模からして屋敷の主屋と考えられる。また、掘立柱建物（SB2904）は構成する柱穴^{ちゆうこん}で柱根が全て遺存する。木製遺物の残りの良さはこの遺跡の特性だが、洗い場と目される水場遺構（SK1565）などでも方形の木組みや柱根が数多く残っている。木製構造物とセットの遺構からは、当時の生活の様子が生々しく具体的に見えてくるようだ。

そのほか、濠（SD1001）以北の空間は屋敷地の外界とみられるが、北辺中央寄りの位置で、並列する2基の土葬墓（SK1125・1126）が見つかった。いずれも木棺直葬^{じきそう}で、棺内からは六道銭^{くわんない}のほか、一方から煙管が、もう一方からは紅血^{べにざら}や有機質^{きりこだま}の切子玉が出土し、被葬者の性格の一端がうかがわれる。敷地の北側に守り神として供えた先祖の屋敷墓だろうか。

まとめ

この2か年で遺跡全体の約50%を発掘調査したことになる。今後は古代の遺構・遺物を中心に調査成果を整理・分析し、遺跡の形成から廃絶に至る変遷過程の解明に努めたい。



写真1 C区俯瞰（南東から）



写真2 近世屋敷地 垂直 (上が北)



写真3 SD1001 灯明皿出土状況



写真4 SK1125 土葬墓 (西から)



写真5 SK1126 土葬墓 (西から)



写真6 SD1001 濠木製遺物出土状況 (東から)



写真7 SB2912 掘立柱建物 全景 (南から)



写真8 SK1565 水場遺構 全景 (北から)



写真9 SB2904 掘立柱建物 全景 (北から)



写真10 ST1730 竪穴建物 全景 (北から)

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 第1回役員会

期 日 平成29年5月10日～5月12日
会 場 山口県山口市 ((公財)山口県埋蔵文化財センター)
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、調査研究専門員 氏家信行

イ 総会

期 日 平成29年6月15日～6月16日
会 場 神奈川県横浜市 (ホテルメルパルク横浜、他)
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、主任調査研究員 大場正善

ウ 全国埋蔵文化財調査情報交換会

期 日 平成29年9月21日
会 場 東京都多摩市 (東京都埋蔵文化財センター)
派遣職員 事務局長 黒坂雅人

エ 研修会

期 日 平成29年11月16日～11月17日
会 場 愛知県名古屋市 (ウインクあいち)
派遣職員 専門調査研究員 高桑 登

オ 第2回役員会

期 日 平成29年11月30日～12月1日
会 場 東京都多摩市 (東京都埋蔵文化財センター)
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、事務局長 黒坂雅人

カ ブロック活動

北海道・東北地区会議

期 日 平成29年10月19日～10月20日
会 場 山形県山形市 (山形テルサ、他)
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、事務局長 黒坂雅人、
業務課長 伊藤邦弘、調整主幹 須賀井新人、
専門調査研究員 菅原哲文、主任調査研究員 天本昌希

(2) 普及啓発

①センター公開事業

ア なつやすみ「子どもミュージアム」

昨年度より、埋蔵文化財センター単独事業として実施している。

山形県内の遺跡から見つかった代表的な出土品を、児童・生徒の夏季休業中に展示した。

併せて、体験活動を取り入れて実施した。

期 間 平成29年7月18日(火)～8月18日(金)
会 場 山形県埋蔵文化財センター
内 容 展示：「やまがたの昔むかし2」
体験：火起こし、縄文クッキー、弓矢、ミュージアムで絵を描こう

入場者数 16名



クルミ割り体験



縄文クッキー体験



火起こし体験

イ 平成29年度 山形県発掘調査速報会2017

山形県教育委員会主催、(公財)山形県埋蔵文化財センター他2市教委共催で実施した。センターが平成29年度に発掘調査を行った遺跡の内、5遺跡5件の調査成果と、山形市教育委員会・米沢市教育委員会の各発掘調査成果を報告した。

期 日 平成30年3月11日(日)

会 場 山形県生涯学習センター 遊学館

内 容 調査の状況をプロジェクターを使って紹介し、併せて出土品の展示・解説を実施した。

入場者数 約150名



発表会場



野田遺跡・下中瀬遺跡の報告



出土品の展示・解説

②考古学講座

ア 特別講演会

職員研修として計画した講演会を一般にも開放し、「考古学講座」として実施した。

期 日 平成30年2月20日(火)

会 場 山形県埋蔵文化財センター

内 容 演題：『中国鄴城(ぎょうじょう)における仏教考古学上の重要発見と研究』

講師：何 利群 氏(東北学院大学大学院客員教授)

解説：佐川正敏 氏(東北学院大学教授)

参加者数 46名



イ センター談話会

センター職員による個人研究の発表会・勉強会を公開し、一般参加者とともに勉強した。

期 日 平成30年3月1日(木)・8日(木)

会 場 山形県埋蔵文化財センター

テーマ 第1回『墨書土器から見た山形県の古代氏名』(植松暁彦)

第2回『漆の考古学 はじめの一步～漆から何が分かるのか～』(木村恵理)

参加者数 合計 のべ42名



③来所者

ア.見学・研修等

No.	来所者	期 日	人数	内 容
1	大江町教育委員会	2017年4月7日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
2	中山町郷土研究会	2017年4月18日	1	施設利用（赤外線による遺物の鑑定）
3	千葉県民	2017年4月21日	2	施設見学
4	河北町民	2017年4月26日	1	施設見学
5	山形市立蔵王第一中学校 2年生	2017年5月17～19日	3	職場体験
6	山形市民	2017年6月6日	1	施設見学
7	平成29年度 第1回市町村文化財担当者研修会	2017年6月7日	35	施設見学、施設利用（講話・実習）
8	兵庫県民	2017年6月14日	2	施設見学
9	山形県立山形盲学校中学部	2017年6月28日	7	施設利用（校外学習）
10	米沢市教育委員会	2017年7月4日	1	施設利用（赤外線による遺物の鑑定）
11	上山市キャリアスタートウィーク	2016年7月4～6日	5	職場体験
12	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	2017年7月5・6日	2	施設利用（写真撮影研修）
13	平成29年度 第2回市町村文化財担当者研修会	2017年7月6日	12	遺跡見学、施設利用（実地研修） 〈野田遺跡〉
14	山形県立寒河江高等学校 2年	2017年7月11日	4	総合的な学習の時間 探求学習
15	東京都民	2017年7月12日	1	施設見学
16	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	2017年8月2日	2	施設利用（写真撮影研修）
17	大江町教育委員会	2017年8月10日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
18	川西町立大塚小学校	2017年8月31日	23	遺跡見学〈八幡西遺跡〉
19	舟形町生涯学習センター	2017年9月15日	5	施設見学
20	舟形町教育委員会 『縄文体験講座Part.3』	2017年9月23日	20	遺跡見学〈野田遺跡〉
21	中山地区会	2017年9月24日	—	施設利用（放送設備一式）

No.	来所者	期 日	人数	内 容
22	秋田県埋蔵文化財センター	2017年10月3日	20	遺跡見学〈野田遺跡〉
23	秋田県埋蔵文化財センター	2017年10月6日	30	遺跡見学〈野田遺跡〉
24	中山地区会	2017年10月8日	—	施設利用（放送設備一式）
25	米沢市教育委員会	2017年10月11日	1	施設利用（赤外線による遺物の鑑定）
26	山形県立米沢興譲館高等学校 SSH事業「異分野融合サイエンス」	2017年10月17日	31	施設見学、施設利用（講話）
27	仙台市縄文の森広場	2017年10月18日	40	遺跡見学〈野田遺跡〉
28	遊佐町立高瀬小学校	2017年10月20日	55	遺跡見学〈野田遺跡〉
29	大蔵中学校同級会	2017年10月23日	40	施設見学
30	南陽市教育委員会	2017年10月24日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
31	東北学院大学文学部	2017年10月25日	3	施設見学 資料見学〈羽黒神社西遺跡〉
32	南陽市教育委員会	2017年10月25日	4	施設利用（写真撮影研修）
33	酒田市教育委員会	2017年11月9日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
34	山形県立霞城学園項等学校 生涯学習講座	2017年11月30日	3	施設見学、施設利用（体験学習）
35	天童市教育委員会	2017年12月11日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
36	寒河江市教育委員会	2018年2月14日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
37	東根市民	2018年3月14日	2	施設見学
38	弘前学院大学	2018年3月19日	1	施設見学 資料見学〈上竹野遺跡〉

イ.図書閲覧

No.	来所者	期 日	閲覧目的
1	吉田建設 埋文調査部 職員	2017年5月1日	調査のため
2	南陽市教育委員会 職員	2017年10月13日	遺跡調査のため
3	山形大学基盤教育院 教員	2018年2月21日	論文作成のため

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	東北芸術工科大学 教員	2017年5月15日	中川原C遺跡
2	国立文化財機構 奈良文化財研究所 職員	2017年6月9日	山形県下出土木質遺物一式
3	新潟大学人文学部 教員	2017年7月3日	作野遺跡、北柳 1 遺跡
4	埼玉県立さきたま史跡の博物館 職員	2017年8月22日	玉作 1 遺跡、高揃南遺跡
5	山形市民	2017年9月11日	太夫小屋 1 遺跡
6	米沢市民	2017年10月12日	坂ノ上遺跡、上荒谷遺跡
7	東北芸術工科大学 教員・学生	2017年10月16日	山居遺跡
8	天童市民	2017年10月30日	的場遺跡
9	東北芸術工科大学 学生	2017年10月26・27 日	熊ノ前遺跡、野新田遺跡
10	東北学院大学 教員	2017年11月10日	オサヤズ窯跡、泉森窯跡、小松原窯跡
11	東北芸術工科大学 学生	2017年11月13日	西向遺跡
12	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 職員	2017年12月26日	北柳 1 遺跡、砂子田遺跡、作野遺跡
13	慶應義塾大学大学院 学生	2018年2月19～23日	お仲間林遺跡
14	仙台市縄文の森広場 職員	2018年2月28日	西海淵遺跡

④調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	川西町	八幡西遺跡（八幡一遺跡）	2017年9月2日	集落跡	48
2	遊佐町	野田遺跡・下中瀬遺跡	2017年11月5日	集落跡	60

⑤職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
1	名古屋大学大学院人文科学研究科長	名古屋大学人文科学研究科	水戸部秀樹	2017年 4月22・23日	科研費プロジェクト「古代地中海世界における知の伝達の諸形態」主催研究会「古代エジプトにおける在地社会とネットワーク」
2	うきたむ考古の会	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	植松 暁彦	2017年 5月13日	うきたむ考古の会総会講演会 講師 「福島県の復興調査と遺跡」
3	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2017年 5月17日	第1回舟形町文化財保護委員会及び歴史民俗資料館運営委員会
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2017年 5月20日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！」 石器作り技術指導
5	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	2017年 5月26日	山辺町文化財保護審議会
6	寒河江市教育委員会	寒河江市文化センター	高桑 登	2017年 5月29日	慈恩寺調査検討委員会での助言・指導
7	東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会	南山形コミュニティーセンター	伊藤 邦弘	2017年 6月17日	東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト講座 講師 「奈良・平安時代の窯跡―南山形の発掘調査から」
8	大石田町教育委員会	大石田町役場	阿部 明彦	2017年 6月23日	平成29年度 第1回 大石田町駒籠楯跡調査検討委員会
9	山形ロータリークラブ	山形グランドホテル	高桑 登	2017年 7月12日	例会卓話 講師 「八反遺跡の一括出土銭」
10	長井市史編纂委員会	置賜生涯学習プラザ	菅原 哲文	2017年 7月14日	平成29年度 第1回 長井市史編集委員会及び執筆委員会
11	寒河江市教育委員会	寒河江市慈恩寺 慈恩寺上の寺遺跡	高桑 登	2017年 7月27日	慈恩寺調査検討委員会での助言・指導
12	舟形町長 森 富広	西ノ前遺跡公園女神の郷	黒坂 雅人	2017年 8月5日	西ノ前遺跡公園女神の郷開園式
13	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2017年 8月5日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！」 石器作り技術指導
14	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2017年 8月10日	School of JOMON 石器作り実演・講演 講師
15	由理柵・駅家研究会	由利本荘市 本荘グランドホテル	阿部 明彦	2017年 8月26日	歴史講演会 講師 「山形県の古代城柵・駅家研究の現状について」
16	大蔵村教育委員会	大蔵村赤松生涯学習センター	菅原 哲文 長澤 友明	2017年 9月3日	平成27、28年度上竹野遺跡発掘調査 説明会 講師
17	北村山地域史研究会	東根市職業訓練センター	菅原 哲文	2017年 9月9日	平成29年度「山形学」地域連携講座 における講座 講師 「扇央に栄えた縄文村」

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
18	北村山地域史研究会	東根市職業訓練センター	高桑 登	2017年 9月18日	平成29年度「山形学」地域連携講座 における講座 講師 「古銭が出たー長瀬八反遺跡の発掘 調査ー」
19	鹿児島大学埋蔵文化財調 査センター	鹿児島大学、鹿児島県立 埋蔵文化財センター	大場 正善	2017年 9月23日 ～10月1日	公開講座 講師 「石から探る旧石器時代の日常」 科学研究費補助金に基づく資料調査
20	米沢市教育委員会	米沢市 花沢 a 遺跡発掘調査現場	水戸部秀樹 五十嵐 萌	2017年 10月4日	花沢 a 遺跡検出遺構の考察及び写真 撮影
21	山形市教育委員会	史跡山形城跡	高桑 登 大場 正善	2017年 10月5日	山形城肴町向櫓、土堀基礎石列の空 撮、及び正射図法写真の撮影
22	朝鮮大学校博物館長	朝鮮大学校 順천시順天月坪先史遺跡	大場 正善	2017年 10月18 ～21日	韓国大学博物館協会秋季学術大会で の石器製作実演
23	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	高桑 弘美 齋藤 健	2017年 10月22日	第19期考古学セミナー 講師 「服部・藤治屋敷遺跡の調査と古墳時 代木製品」 「板橋 2 遺跡の調査と古墳時代木製 品」
24	東根市教育委員会	東根市役所	阿部 明彦	2017年 11月1日	東根市文化財保護審議会
25	長井市史編纂委員会	長井市「はぎ苑」	菅原 哲文	2017年 11月2日	平成29年度 第2回 長井市史編集委員会及び執筆員会
26	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	大場 正善	2017年 11月3日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！」 石器作り技術指導
27	寒河江市教育委員会	寒河江市慈恩寺 慈恩寺上の寺遺跡	高桑 登	2017年 11月14日	慈恩寺調査検討委員会での助言・指導
28	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2017年 11月16日	平成29年度 第1回運営協議会
29	南部郷土史愛好会	山形市南部公民館	阿部 明彦	2017年 11月20日	歴史講座 講師 「『羽羽国の成立』東北、山形と朝廷 との関わり」
30	山形県教育委員会	山形県庁	高桑 弘美	2017年 11月21日	山形県文化財保護審議会
31	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	2017年 12月27日	山形市文化財保護委員会
32	鹿児島大学埋蔵文化財調 査センター	鹿児島市立ふるさと考古 歴史館、鹿児島県立埋蔵 文化財センター	大場 正善	2018年 1月14～21日	科学研究費補助金に基づく資料調査
33	村山市歴史文化基本構想 策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2018年 1月23日	村山市歴史文化基本構想策定委員会
34	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	菊池 玄輝	2018年 2月4日	考古資料検討会 「八幡西遺跡」の調査報告

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
35	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2018年 2月6日	平成29年度 第2回運営協議会
36	山辺ロータリークラブ	J A山形山辺支店	黒坂 雅人	2018年 2月6日	例会卓話 講師 「山形の国宝と縄文の女神」
37	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2018年 3月2日	第2回舟形町文化財保護委員会
38	東根市教育委員会	東根市役所	阿部 明彦	2018年 3月5日	東根市文化財保護審議会
39	山形県教育庁文化財・生涯 学習課	山形県生涯学習センター 遊学館	小林 圭一 高木 茜 菊池 玄輝 色摩 優吾 水戸部秀樹 五十嵐 萌 植松 暁彦 阿部 明彦 齊藤 主税	2018年 3月11日	平成29年度 山形県発掘調査速報会2017
40	村山市歴史文化基本構想 策定委員会	村山市 農村環境改善センター	阿部 明彦	2018年 3月20日	村山市歴史文化基本構想策定委員会
41	中山町教育委員会	中山町役場	伊藤 邦弘	2018年 3月20日	中山町文化財保護審議会
42	大石田町教育委員会	大石田町役場	阿部 明彦	2018年 3月27日	平成29年度 第2回 大石田町駒籠楯跡調査検討委員会

⑥資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	(株)テレビユー山形	ニュース特集「平安時代に庄内で2度の大津波」の中で映像資料として紹介するため	2017年4月10日	矢馳遺跡 写真資料	2
2	舟形町教育委員会	舟形町歴史民俗資料館及び縄文の女神まつり展示のため	2017年4月27日 ～11月30日	西ノ前遺跡	63
3	(株)吉川弘文館	飯村均・室野秀文編『東北の名城を歩く―宮城・山形・福島編―』に掲載のため	2017年5月19日	亀ヶ崎城跡 写真資料	1
4	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	日本文化財科学会第34回大会における研究発表のため	2017年6月8日 ～6月13日	清水西遺跡	12
5	遊佐町教育委員会	「現代に伝わる縄文のくらし・風景」展に展示のため	2017年7月21日 ～8月30日	吹浦遺跡 同 写真資料	17 15
6	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにて展示のため	2017年7月25日 ～8月9日	高瀬山遺跡(HO地区)	98
7	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにて展示のため	2017年7月27日 ～8月8日	高瀬山遺跡 写真資料	9
8	酒田市立資料館	第203回企画展「武士の時代」の展示資料として	2017年8月1日 ～11月30日	亀ヶ崎城跡 同 写真資料	14 13
9	大蔵村教育委員会	大蔵村教育委員会主催上竹野遺跡発掘調査説明会における広報チラシとして使用するため	2017年8月4日	上竹野遺跡 写真資料	3
10	長岡市立科学博物館	長岡市馬高縄文館秋季特別展「東北の土器と火炎土器Ⅱ」にて展示・掲載するため	2017年9月14日 ～11月18日	西ノ前遺跡、中川原C遺跡 原の内A遺跡、西海淵遺跡 同 写真資料	60 10
11	山形県村山市	村山市教育委員会発行『遠い昔の村山市』に掲載するため	2017年9月29日	清水西遺跡、宮の前遺跡 羽黒神社西遺跡、作野遺跡 西海淵遺跡、沼田1遺跡 川口遺跡、中村A遺跡 ホームページ掲載写真 等の写真資料	37
12	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	参考資料として	2017年11月9日 ～11月21日	お花山古墳 写真アルバム	6
13	山形市民	自著『太夫小屋1遺跡 補遺』に掲載するため	2017年10月6日	太夫小屋遺跡 写真資料	2
14	山形市民	さあべい同人会『さあべい』に大蔵村上竹野遺跡について掲載するため	2017年12月6日	上竹野遺跡 写真資料 他	46
15	山形県舟形町	舟形町健康カレンダーへ掲載のため	2018年2月5日	西ノ前遺跡 写真資料	9

⑦資料掲載許可

No	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	(株)テレビユー山形	ニュース特集「平安時代に庄内で2度の天津波」の中で映像資料として紹介するため	矢馳遺跡 写真資料	2
2	(株)吉川弘文館	飯村均・室野秀文編『東北の名城を歩く―宮城・山形・福島編―』に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	1
3	山辺町ふるさと資料館	夜学講座「南蔵トーク」受講者募集用チラシに掲載のため	西ノ前遺跡 写真資料	1
4	舟形町教育委員会	西ノ前遺跡公園女神の郷に設置する遺跡説明看板に掲載のため	西ノ前遺跡 写真資料 等	11
5	(公財)石川県埋蔵文化財センター	平成29年度いしかわの発掘展「遺跡が語る 発掘20年の歴史Part I～旧石器から古墳時代編～」での展示パネル・解説シートに使用するため	お仲間林遺跡	1
6	山形考古学会	山形考古第47号巻頭カラー図版として掲載するため	上竹野遺跡	2
7	(公財)仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館	平成29年度第2回コーナー展示「仙山交流in高島―押出遺跡と出土遺物―」における展示パネルとして使用するため	押出遺跡 イラスト資料	1
8	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	第25回企画展図録『木と生きる～弥生・古墳時代の木製品』及び、展示パネル、チラシとして使用するため	長表遺跡、百川田遺跡 高揃南遺跡、藤治屋敷遺跡 板橋1遺跡、板橋2遺跡	48
9	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア「縄文時代の水辺とくらし」展にて展示するため	高瀬山遺跡 写真資料 他	9
10	大蔵村教育委員会	大蔵村教育委員会主催上竹野遺跡発掘調査説明会における広報チラシとして使用するため	上竹野遺跡 写真資料	3
11	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア「縄文時代の水辺とくらし」展にて展示するため	高瀬山遺跡 写真資料	2
12	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	第25回企画展『木と生きる～弥生・古墳時代の木製品』での展示パネルとして使用するため	板橋1遺跡、藤治屋敷遺跡 写真資料	4
13	山形県村山市	村山市教育委員会発行『遠い昔の村山市』に掲載するため	清水西遺跡、宮の前遺跡 羽黒神社西遺跡、作野遺跡 西海淵遺跡、沼田1遺跡 川口遺跡、中村A遺跡 ホームページ掲載写真 等の写真資料	37
14	山形市民	自著『太夫小屋1遺跡 補遺』に掲載するため	太夫小屋遺跡 写真資料	2
15	山形新聞 酒田支社	発掘調査説明会を事前に紙面にて広報するため	ホームページ上に公開した野田遺跡・下中瀬遺跡の写真資料	3
16	山形市民	さあべい同人会『さあべい』に大蔵村上竹野遺跡について掲載するため	上竹野遺跡 写真資料 他	46
17	山形県舟形町	舟形町健康カレンダーに掲載するため	西ノ前遺跡 写真資料	9
18	島根県教育庁文化財課	島根県古代文化センター発行『島根の古代文化』第25号に掲載するため	上高田遺跡	1

⑧研究紀要

山形県埋蔵文化財センター『研究紀要』第10号に掲載した論文の、タイトルと執筆者は以下の通りです。

- ・間接打撃の痕跡……………大場正善
—先史時代珪質頁岩製石器資料に対する技術学的理解のために：その3—
- ・松島湾における縄文時代晩期の遺跡動態……………小林圭一
- ・上竹野遺跡出土の土偶……………菅原哲文、長澤友明
- ・山形県庄内地域における奈良・平安時代の土師器について……………吉田 満
- ・庄内地方の平安時代の二つの津波イベントと周辺遺跡の様相……………植松暁彦

⑨出版物

ア.調査説明会資料

書名	発行年月日
八幡西遺跡 第2次	2017年9月2日
下中瀬遺跡	2017年11月5日
野田遺跡	2017年11月5日

イ.調査報告書

シリーズNo.	書名	発行年月日
229	松橋遺跡発掘調査報告書	2018年3月31日
230	馳上遺跡第7・8次 元立北遺跡発掘調査報告書	2018年3月31日

ウ.その他

資料名	発行年月日
平成28年度 年報	2017年5月1日
研究紀要 第10号	2018年3月30日

⑩ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・整理作業トピックス 整理作業中の遺跡から、話題を取り上げて紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明資料などの刊行物等の紹介
- ・埋文やまがた Web版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

(3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書1,810冊 のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

ISSN 1341-397X

年 報

平成29年度

2018年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
Tel 023-672-5301(代)

印 刷 (株)〇〇印刷



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として
いるこの図柄は、
Yamagata
Archaeology
Center
の3つの頭文字をあしらっ
たものです。特に**Y**は、国
宝「縄文の女神」をイメー
ジしています。